

東京外かく環状道路（千葉区間）開通5年の整備効果

千葉県のみならず首都圏で整備効果を実感



千葉県知事
熊谷 俊人 氏

東京外かく環状道路（千葉区間）の開通により、本県から都心を経由せずに首都圏各地にアクセスが可能となり、所要時間の短縮による生産性や利便性の向上が図られ、その効果は首都圏に広く及んでいるところです。

本県においても、製造品出荷額の増加をはじめ、周辺地域における観光入込客数の増加、物流施設の立地による新たな雇用の創出など、大きな経済効果をもたらしています。

また、周辺の生活道路では、東京外かく環状道路への交通の転換による渋滞緩和や交通事故件数の減少など、生活環境の改善が図られています。

「道の駅いちかわ」においては文化交流の機会等が創出され、開通から5年が経過した今、その整備効果は多岐にわたっています。

県としても、こうした道路整備の効果が最大限発揮されるように、アクセス道路等の整備を着実に進めるとともに、地域の特性や強みを生かした産業振興施策等を進め、県全体の活性化を図ってまいります。

今後も、京葉ジャンクションのフルジャンクション化や北千葉道路の整備により、アクアラインや圏央道と一体となって環状道路の機能が発揮されるとともに、新湾岸道路等の計画が早期に具体化され、ますます便利な千葉県になることを期待します。



ちばぎん総合研究所 代表取締役社長
前田 栄治 氏

東京外かく環状道路（以下、外環道）千葉区間の開通により、千葉県の湾岸エリアと東葛エリアや埼玉方面など内陸部との時間距離が大幅に短縮されました。この結果、沿線を中心に物流関連施設や観光入込客数が増加するなど、県内のみならず東京圏に大きな経済効果をもたらされています。当社が東京圏の企業を対象に実施したアンケート調査において、近年整備された幹線道路のうち整備効果が高い道路として外環道千葉区間がトップとなったことから、経済効果の高さが窺えます。沿線地域の住民生活にとっては、抜け道に使われていた生活道路の渋滞・事故が減少しており、質の向上に繋がっています。

同じアンケートでは、今後整備が望まれる道路として外環道（北千葉ジャンクション（仮称））と成田空港とを最短で結ぶ北千葉道路が上位に入っています。北千葉道路の開通は、今後進められる圏央道 県内区間の全線開通や成田空港の機能強化と相俟って、経済効果を大きく高めることに繋がります。また、東関東自動車道を補完する新たな輸送ルートが確保されるため、災害時における物資の輸送や救急医療活動の支援などの効果も期待できます。早期の全線開通が強く望まれます。